

作本氏らSAS対策講演

中運局事故防止セミナー

【愛知】中部運輸局は3日、名古屋市公会堂で事故防止セミナー2014を開催した。

開会あいさつで、同運輸局次長の江角直樹氏は「本日のセミナーをきっかけに、事故防止のための健康マニュアルの理解が適切に行われることを願う。また、講師の話聞くことで、事故防止に役に立つことを期待する」と話した。

セミナーでは、4人の講師が講演を行った。事業用自動車の運転者の健康管理について、国交省自動車局安全政策課長の小林豊氏、「実例から検討する健康起因事故防止対策」〜定期健康診断とSAS対策の重要性〜として、NPOヘルス

ケアネットワーク副理事長の作本貞子氏、運転障害における脳・神経疾患の位置づけとして、埼玉医科大学神経内科学教授・副学部長の荒木信夫氏、先進安全システムによる運転支援として日野自動車技術研究所所長の榎本

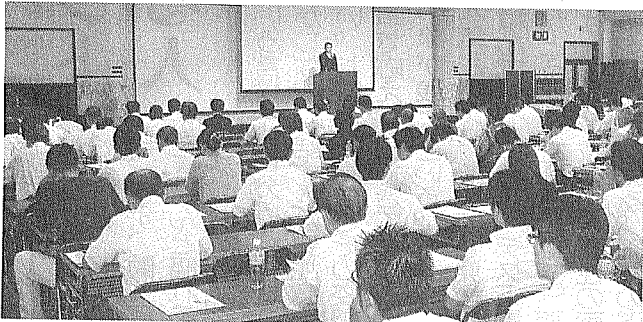
英彦氏がそれぞれ講演を行った。作本氏は健康起因による事故の実例を紹介。あるドライバーが過去にSA S検査を受け、治療が必要と判定されたにも関わらず治療を継続し

ていなかったことで、再び事故を起こしたことから「SASという病気の理解と、運転業務における定期的なチェックが不可欠」と話した。

また、健康起因事故対策について、「重要なのは検診やSAS検査の結果を放置しないこと。公道が仕事場のドライバーの健康は、他業種よりも強く求め

られていることを認識し、職場復帰は業務との関連性で慎重に対応しなければならない」と語った。

最後に、講師4人に業界の代表者を加え「ソフト・ハード両面による健康管理と対処の充実」についてパネルディスカッションが行われた。(出水駿甫)



セミナー会場の様子